

# 変革事例に見る 教育行政のリーダーに 求められる資質

授業改善やICT活用の推進、不登校児童生徒への対応、学校の統廃合、教員の働き方改革など、教育委員会は常に様々な課題に取り組んでいる。  
 変革をリードしていくために、教育長や教育委員会の幹部には適切なマネジメントとリーダーシップが求められるだろう。  
 本誌の読者モニターアンケートの結果からも、その2つの資質の重要性が増していることがうかがえる（下記Q1・2）。  
 そこで今号は、教育行政のリーダーに求められるマネジメントとリーダーシップについて、有識者の解説や、教育長のリードの下、施策を推進する4つの自治体の変革事例を通じて考える。

**Q1** 近年、教育委員会のマネジメントやリーダーシップの重要性は増してきていると思いますか。



**Q2** 教育委員会のマネジメントやリーダーシップの重要性が増してきたと思う背景を教えてください。

- ICTを始めとして、大きな予算を確保しなければ学校現場を変えられない施策が増えている。
- 同一自治体内での教育施策では「機会均等」にしてほしいという声が増えた。
- 個々の学校だけでできることには限界がある。今後は、人材や予算について、より一層地域間のバランスを考慮してマネジメントをする必要がある。
- 地域間の差が広がる中で、教育の質の向上と機会の均等を同時に図る必要がある。
- 情報過多の現代社会では、教育委員会は何を選択すべきかが問われていると感じる。

※『VIEW next』教育委員会版読者モニターアンケート結果（2025年6～7月にウェブで実施。有効回答数は79）を基に編集部で作成。